



時報メロディーを流す  
3代目ミュージック  
チャイム＝敦賀市役所  
新庁舎屋上

時報メロディーは現在、現庁舎の屋上に設置されたチャイムから1日4回流れる。午前6時の「スワニー河」（フォスター作曲）は、市民の目覚まし代わりに。正午には港町らしく「われは海の子」（文部省唱歌）が

## 新庁舎に設置

よると、有馬会長の先代、義夫氏。当時社長が市制20周年を記念して設置費100万円を寄付。時報のサイレンがメロディーに変わった。当時は3曲で「吹け春風」（フォスター作曲）が午前6時と午前8時半、「ボルガの舟歌」（ロシア民謡）が正午と午後5時、「ブラームスの子守歌」が午後9時の計5回流れていた。

68年に敦賀港に入港

新庁舎への設置費1331万円の目録贈呈式で有馬会長は「北陸新幹線で敦賀に來た方へのおもてなしのシンボルになればとも思う。市民の皆さんには今まで以上に親しんでいただきたい」と述べた。洲上隆信市長は「シンボリックなものとして未永く鳴らしていきたい」と感謝していた。

# 息づく チャイム これからも

## 敦賀にメロディー、親しまれ60年

来年1月から供用開始となる敦賀市役所新庁舎にミュージックチャイムが設置された。60年以上にわたって市民に親しまれてきた時報メロディーが今後も流されることになる。チャイムは3代目で、すべての設置に関わった敦賀海陸運輸(桜町)の有馬義一会長は「潤いのある、明るいまちづくりに貢献できれば」と思いを語った。  
(近藤洋平)

昼食時間を告げ、午後5時には「家路」（ドヴォルザーク作曲）が帰宅の準備を促すように流れる。午後9時に「シューベルトの子守歌」が眠りにいざなう。

現庁舎に移転した74年からは一時期、メロディーは途絶えたが、80年に復活。この際には同社長だった有馬会長が設置費用500万円を寄付した。同年6月の市報には、現在まで続く曲目を市民から希望を募って決定し、海開きの7月10日から流し始めたことが記されている。